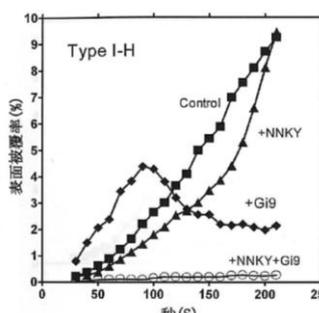
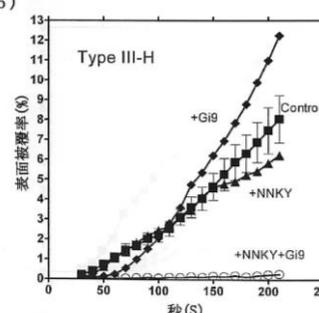


タイトル 血小板の粘着凝集反応関連疾患の予防用又は治療用の医薬組成物及びそのスクリーニング方法		
技術分野 <input type="checkbox"/> 食品・バイオ <input checked="" type="checkbox"/> 医療 <input checked="" type="checkbox"/> 化学・薬品 <input type="checkbox"/> その他()	利用分野・適用可能分野 治療薬(医薬)開発: (血栓溶解剤、抗血栓薬)	情報メモ 別紙資料: <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 サンプル: <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 見学: <input type="checkbox"/> 可 <input checked="" type="checkbox"/> 不可 その他:
提供特許情報(出願番号等/出願日/出願人) 国際公開番号:WO 2007/139208 PCT出願番号:PCT/JP2007/061150 PCT出願日:2007年5月25日 発明の名称:血小板の粘着凝集反応に関連する疾患の予防用又は治療用の医薬組成物、および、そのスクリーニング方法 出願人:学校法人久留米大学		関連特許番号
目的・効果・特徴 【目的】 血液の血栓形成反応機序(メカニズム)を解明し、血栓形成防止をもたらしめる、新規医薬の開発に資する。 【効果】 フォンヴィレブランド病、血栓症等の血小板の粘着凝集反応に関連する疾患に対する予防剤、治療剤の開発に有用な新規メカニズムを見出し、従来医薬に比較して優れた医薬の開発が可能となった。これに加えて、本メカニズムに沿って、新たな抗体も開発され、抗体医薬の開発も期待される。 【特徴】 流血下における血小板のコラーゲン表面への粘着反応において、従来のフォンヴィレブランド因子を介したメカニズムに加えてインテグリン $\alpha 2 B 1$ (血小板コラーゲンレセプター)とコラーゲンとの相互作用が関与し、これらの2反応が互いに重要な役割を果たすことを見出した。		
技術概要 本発明は、血小板が関与する粘着反応には、従来メカニズムに加えてインテグリンとコラーゲンとの相互作用が関与していることが見出されたことから、インテグリンの活性を変化させることで血栓形成反応のコントロールを可能とした。 具体的にはインテグリンの阻害抗体により効果的に血栓形成を抑制することが達成され、またインテグリンの活性化抗体によって、血小板粘着反応の促進が達成された。		
図・特記事項・その他		
(a) 	(b) 	
高密度のタイプ I 及びタイプ I I I コラーゲン表面への血小板粘着を表面被覆率 (%) で量的に表したグラフである。(a) が高密度のタイプ I コラーゲン (Type I-H) の場合であり、(b) が高密度のタイプ I I I コラーゲン (Type I I I-H) の場合である		低密度のタイプ I 及びタイプ I I I コラーゲン表面への血小板粘着を表面被覆率 (%) で量的に表したグラフである。(a) が低密度のタイプ I コラーゲン (Type I-L) の場合であり、(b) が低密度のタイプ I I I コラーゲン (Type I I I-L) の場合である。